

## 病理研修プログラム

指 導 医 三戸 聖也（臨床検査科）

研 修 期 間 基 本 コ ー ス 選 択 科 目 1 ヶ月から9 ヶ月  
小児科・産婦人科コース  
産 婦 人 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月  
小 児 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月

一般目標（GIO）：

医療における病理の役割と業務の実際を理解するとともに、疾患を総合的に理解する力を習得する。

行動目標（SBOs）：

1. 臨床経過・問題点を的確に解釈・説明できる。
2. 病理解剖の適応と法的遵守事項を説明できる。
3. 病理解剖の目的と意義を説明できる。
4. 病理解剖の手技を説明できる。
5. 御遺体に対して礼をもって接する。
6. 病理所見（肉眼・組織）・病理解剖診断の内容を説明できる。
7. 症例のプレゼンテーションができる。
8. 病理診断の目的と意義を説明できる。
9. 組織検体，細胞検体の提出方法を説明できる。
10. 病理標本，細胞標本の作製方法を説明できる。
11. 病理組織診断，細胞診断の報告内容を説明できる。
12. 術中迅速診断の適応と診断の限界を説明できる。
13. 病理業務におけるバイオハザードを説明できる。
14. 臨床医，検査技師などのコメディカルと協調する。
15. 病理業務のコストパフォーマンスに関心をもつ。
16. 病理材料を用いる研究に対する倫理的配慮を説明できる。

方法：

研修方法：指導医あるいは臨床検査技師とのマンツーマンによる指導。共に，標本作製，診断，病理解剖などの実際の業務に携わる。必要に応じて自己学習する。

評価：

評価はE P O Cを使用し、自己評価及び指導医の評価を行う。